

平成21年度第2回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2009年7月～8月)のポイント

(1) 来遊量：

シラスは播磨灘北西部・南西部を除いて前年を上回るか前年並み。

カタクチイワシ(小羽から大羽)は前年並みか上回る。

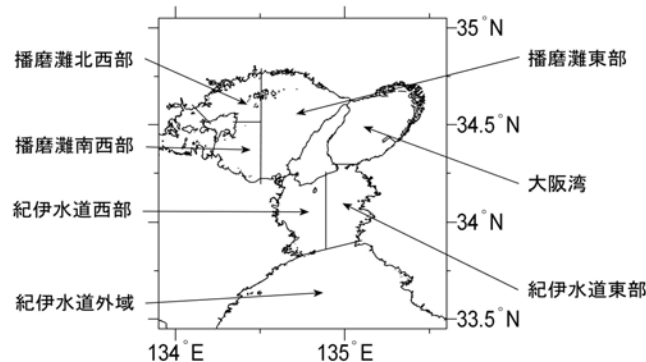
(2) 漁場：

紀伊水道のシラスは不漁であった前年を上回るが、平年を下回る。

大阪湾のシラスは前年同様、前年並み。カタクチイワシは好漁であった前年並みか上回る。

播磨灘東部のシラスは不漁であった前年を上回り、平年も上回る。

播磨灘北西部・南西部のシラスは好漁であった前年を下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班

担当：今井、和田、染川

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>

平成21年度第2回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2009年7月～8月）

シラス（本年夏季発生群）

紀伊水道では不漁であった前年を上回るが、平年を下回る。

大阪湾では前年同様、平年並み。

播磨灘東部では不漁であった前年を上回り、平年も上回る。

播磨灘北西部・南西部では好漁であった前年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船の漁獲量を各海域の指標とし（図1～3）、特に断りがない場合、1985～2008年の平均値を平年値とした。

カタクチイワシ（小羽から大羽）

大阪湾では好漁であった前年並みか上回る。

標本船の漁獲量を指標とし（図4）、1985～2008年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2009年5月～6月）および今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では5月の漁獲量は前年の307%、平年の69%であった。6月は18日現在まで低調である。

紀伊水道西部（徳島県側）では5月の漁獲量は前年の352%、平年の72%であった。6月上旬は前年の347%、平年の37%であった。6月中旬以降、減少傾向にある。

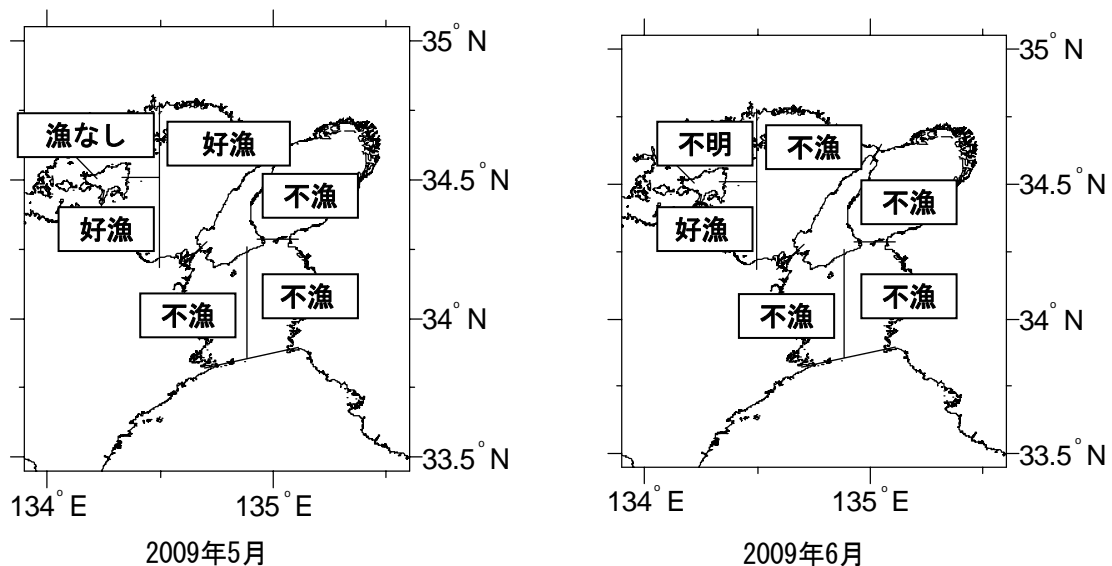
大阪湾（大阪府）では2009年の漁は前年より遅い4月23日から始まった。4月の漁獲量は平年の49%であった（前年は0t）。5月は前年の482%、平年の86%であった。5月下旬から6月中旬まで新規加入はみられなくなったが、現在は小型個体の魚影が出現しはじめた模様である。

大阪湾（兵庫県）では2009年の漁は前年より23日早い4月23日から始まった。4月の漁獲量は平年の53%であった（前年は0t）。5月は前年の550%、平年の73%であった。5月上旬から中旬にかけて漁獲量の増加が見られたものの、その後減少したため、下旬に一時的に休漁した。6月に漁を再開したが、低調な漁模様で推移している。

播磨灘東部（兵庫県側）では2009年の漁は前年より12日早い5月12日から始まった。5月の漁獲量は平年の193%であった（前年は0t）。6月に入ると低調になり、一時的に休漁しているところも見られている。

播磨灘南西部（香川県側）では2009年の漁は5月、6月とも好漁である。

播磨灘北西部（岡山県側）では2009年の漁は前年より1週間程度遅い6月上旬から始まった。漁獲量は前年より少ない模様である。



2009年5～6月のシラス漁況

(2) 産卵量

紀伊水道外域東部では5月は前年の770%、平年（1999～2008年の平均値）の163%であった。6月は前年の2,791%、平年の329%であった。紀伊水道東部では5月は前年の62%、平年の3%で、6月は前年の70%、平年の14%であった。

紀伊水道外域西部では5月は前年の247%、平年の77%で、6月は前年の9,449%、平年の516%であった。紀伊水道西部では5月は前年の204%、平年の64%で、6月は前年の125%、平年の72%であった。

大阪湾では5月は前年の363%、平年の352%、6月は前年の117%、平年の105%であった。

播磨灘では6月は前年の1,968%、平年の349%であった（図5）。

(3) 今後の見通しの説明

シラス（本年夏季発生群）

6月24日現在、黒潮は都井岬沖～足摺岬・室戸岬でやや離岸、潮岬沖で接岸している。6月16日に得られた海面水温衛星画像によると、豊後水道外域と紀伊水道外域に黒潮系暖水の波及が見られ、黒潮上流域の種子島付近では大きく離岸している。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産総合研究センターの海況予報モデル（FRA-JCOPE）の予報結果を併せて考慮すると、黒潮は8月上旬まで潮岬沖で接岸した傾向を示すが、8月中旬以降はやや離岸して推移すると予想される。

紀伊水道東部では外海発生群および内海発生群が漁獲されていると推定される。紀伊水道外域東部、紀伊水道東部および大阪湾の5～6月の産卵量は総じて前年より多かった。産卵状況と現在の低調な漁況から判断すると不漁であった前年を上回るが、平年を下回ると考えられる。

紀伊水道西部でも外海発生群および内海発生群が漁獲されていると推定される。7～8月の漁獲量は、紀伊水道および播磨灘においてある程度の産卵量があり、紀伊水道西部と播磨灘の6月の水温が低いほど多くなる傾向がある（図6）。紀伊水道西部の6月の産卵量は前年を上回ったものの平年を下回り、水温は紀伊水道西部で前年より0.7℃低く、平年並み（平年値-0.5℃≤並み≤平年値+0.5℃）であった。一方、播磨灘の産卵量は前年、平年を上回ったが、水温は前年より0.9℃高く、平年よりやや高め（平年値+0.5℃<やや高め≤平年値+1.0℃）と条件はよくない。産卵状況と水温から判断すると不漁であった前年を上回るが、平年を下回ると考えられる。

大阪湾では外海発生群が春から引き続き漁獲されるのに加え、内海発生群が6月以降にシラスとして漁獲されるようになる。現在、黒潮は接岸傾向で大阪湾への来遊条件はよいが、紀伊水道での漁が低調であり、外海発生群の

漁獲はあまり期待できない。本年夏季の大阪湾における内海発生群は、産卵状況から前年、平年を上回ると推測され、現在は大阪湾発生と思われる小型個体の魚影が出現しはじめた。これらが順調に加入すれば漁況が回復する可能性があり、前年同様、平年並みと考えられる。

内海発生群が漁の主体である播磨灘東部では6月の水温が低いほど7~8月の漁獲量が多くなる傾向がある(図7)。また明瞭でないものの6月の産卵量が多いほど7~8月の漁獲量が多くなる傾向がある(図7)。2009年6月の水温はやや高めであるが、産卵量が多いことから(図5)、不漁であった前年を上回り、平年を上回ると予想される(図8)。

播磨灘南西部も内海発生群が漁の主体である。播磨灘の産卵状況はよいが、南西部海域ではよくない。産卵状況から判断すると好漁であった前年を下回ると予想される。

播磨灘北西部も内海発生群が漁の主体である。産卵状況と現在までの漁況から判断すると好漁であった前年を下回ると予想される。

カタクチイワシ(小羽から大羽)

大阪湾では漁期当初に前年発生の1才魚、その後は本年春シラス漁で漁獲の対象となった0才魚が小・中羽として漁獲される。前年7~9月には平年を上回る0才魚が漁獲された。さらに本年早春季にもカタクチイワシ親魚が漁獲されており、大阪湾に滞留している1才魚は現在も多いと考えられる。このことと、本年春シラスの漁況と夏シラスの漁況予測から判断して、好漁であった前年並みか上回ると考えられる。

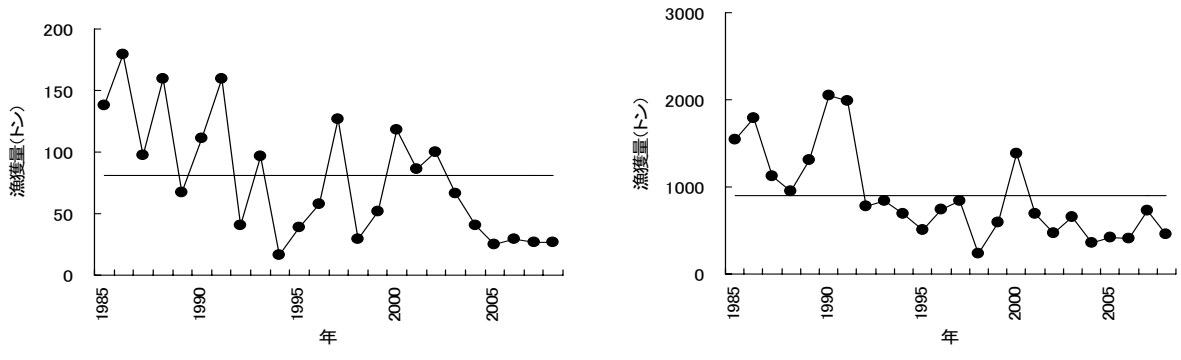


図1 紀伊水道東部（和歌山県側：左図）および紀伊水道西部（徳島県側：右図）の標本漁協における7～8月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

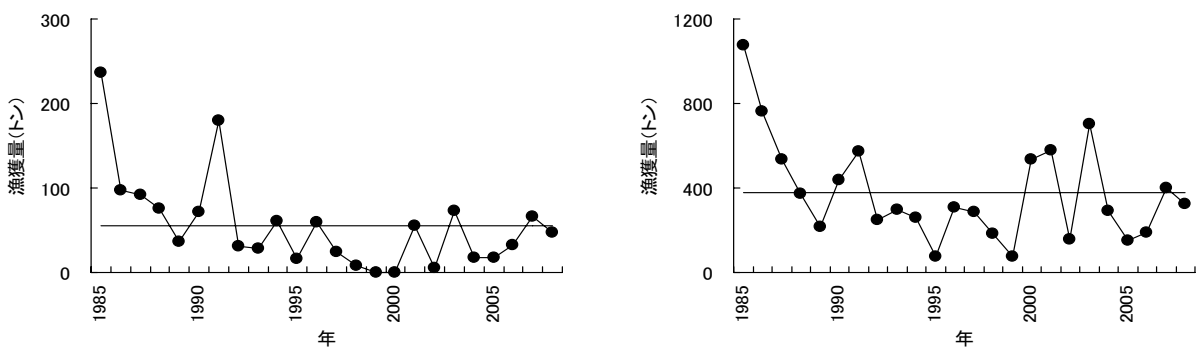


図2 大阪湾（大阪府：左図、兵庫県：右図）の標本漁協における7～8月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

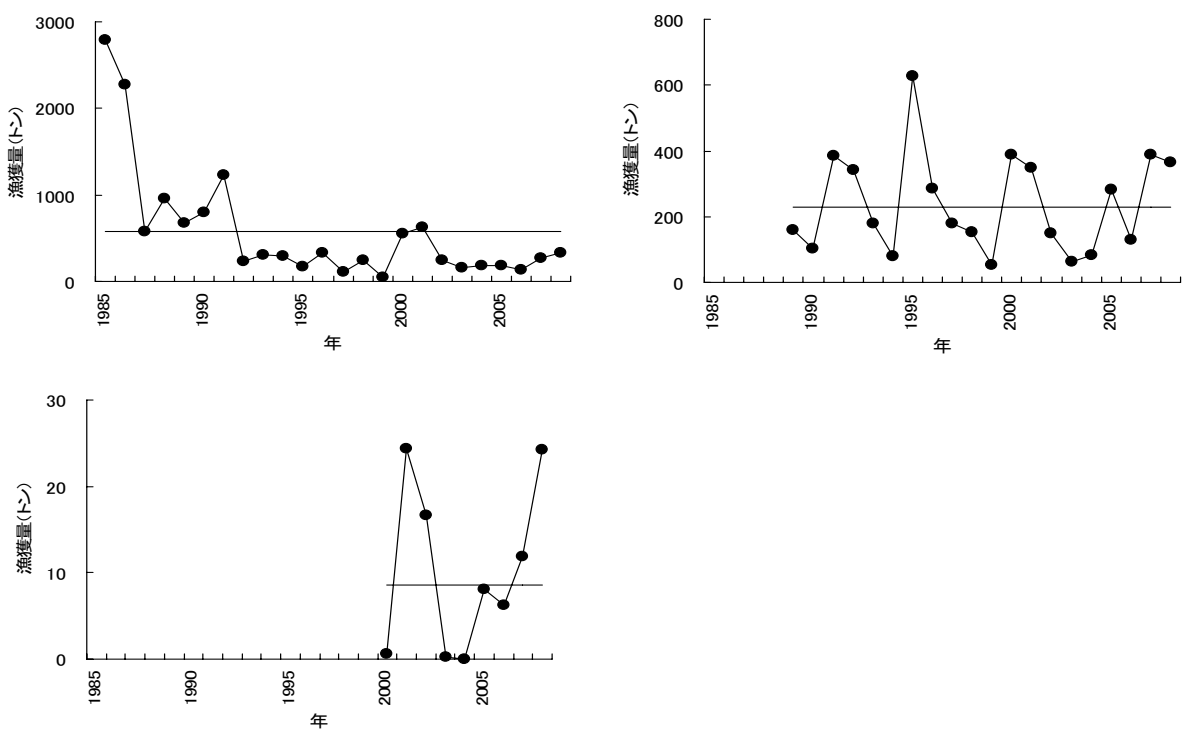


図3 播磨灘東部（兵庫県側：左上図）、播磨灘南西部（香川県側：右上図）の標本漁協における7～8月のシラス漁獲量、および播磨灘北西部（岡山県側：左下図）の標本船における7～8月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

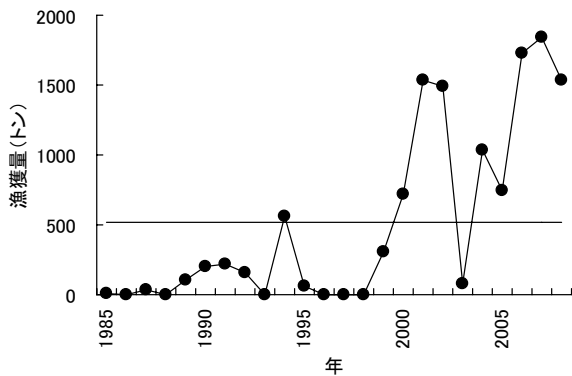


図4 大阪湾の標本船における7~8月のカタクチイワシ漁獲量（実線は平年値を示す）

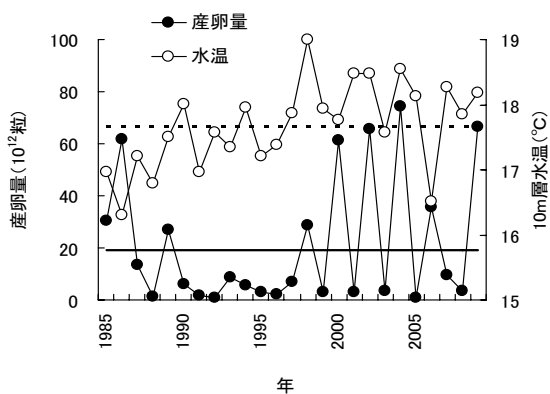


図5 播磨灘における6月の産卵量と10m層水温（実線は産卵量、点線は10m層水温の平年値を示す）

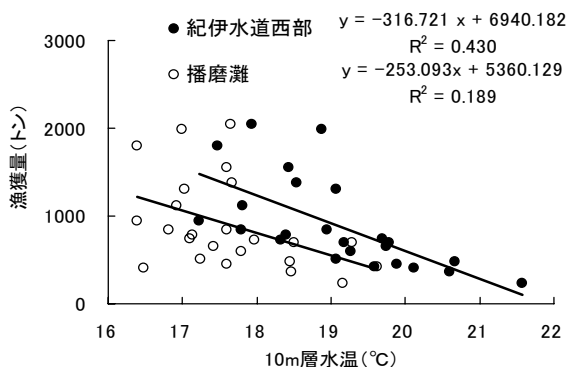


図6 紀伊水道西部・播磨灘における6月の10m層水温と紀伊水道西部の標本漁協におけるシラス漁獲量の関係

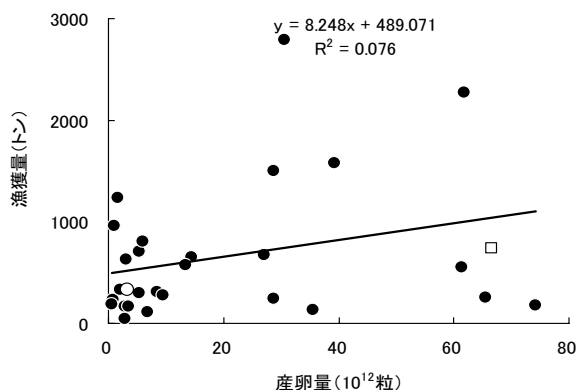
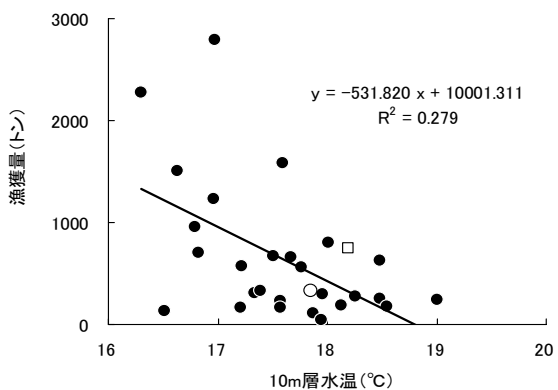


図7 播磨灘における6月の10m層水温と播磨灘東部における標本漁協のシラス漁獲量の関係（左図）および6月の産卵量と標本漁協のシラス漁獲量の関係（右図）
 ○は2008年の漁獲量、□は2009年の予測値（2009年の予測値は産卵量と水温をパラメータとした重回帰分析から求めているため、各図の回帰直線上にはない）

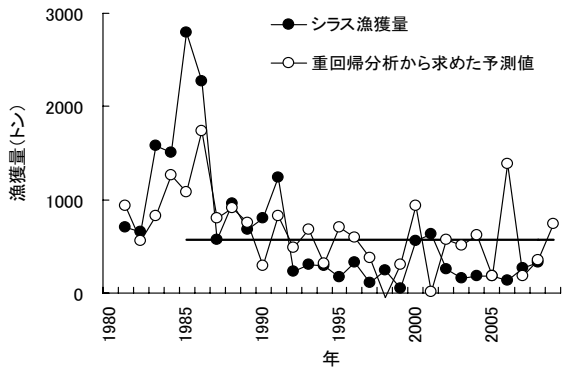


図8 播磨灘の標本漁協における7-8月のシラス漁獲量と重回帰分析から求めた漁獲量予測値（実線は平年値を示す）

参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場	香川県水産試験場
大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
岡山県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所 瀬戸内海区水産研究所